

東部森林 組合だより

令和5年12月 No.105

Forest

発行 鳥取県東部森林組合
〒680-0947 鳥取市湖山町西1丁目328-2
TEL 0857-28-5751 FAX 0857-28-9180
E-mail:info@toubushinrin.com

Contents

- 次世代苗「エリートツリー」の種子を初収穫 1
- 花粉症対策への取組みについて 2
- 各地区総代との意見交換会を開催 3
- 組合事業の紹介（主伐・再造林、早生樹造林事業） 3
- 「第3回日本伐木チャンピオンシップin鳥取」
が開催されました！ 4 5
- 湖南学園・鳥取北ロータリークラブと協働植樹を実施 6
- 未来の人財を求めて高校を訪問！ 6
- にちなん林業アカデミーの現地研修を受入れ 7
- 智頭農林高等学校からの就業体験を受け入れ 7
- 森林の仕事ガイダンスへ参加 8
- 夏の献血を実施 8
- 新人職員の紹介（山名） 8
- 組合員向け「チェーンソー講習会」実施のご案内 8
- お知らせ（相続加入届、組合員加入のメリット） 8



次世代苗「エリートツリー」の種子を初収穫

令和5年10月6日、日本製紙株式会社の倉吉閉鎖型採種園（倉吉市大谷茶屋）で行われた、スギの「エリートツリー」の種子の初収穫に、本組合から嶋沢組合長、竹内林産一課長以下4名が参加しました。

「エリートツリー」は、一般のスギ・ヒノキに比べ成長とCO²吸収量が1.5倍以上、花粉量が半分以下、伐期が50年程度から30年程度に短縮することが見込まれるなど、農林水産大臣が認定した樹木です。

日本製紙株式会社の倉吉閉鎖型採種園は令和4年10月に整備された施設で、ビニールハウス内で種子生産を行うことにより、外来花粉の侵入を防ぎ、エリートツリー同士の確実な交配が可能となる施設です。

この施設で生産された種子を使ったコンテナ苗は、令和6年秋ごろから出荷される予定であり、本組合では出荷されたエリートツリーのコンテナ苗を積極的に再造林に利用していく計画です。

花粉症対策への取り組みについて

代表理事組合長 嶋沢和幸

国民の花粉症有病率は約4割（ほとんどがスギ花粉症）となっており、花粉症は多くの国民を悩ませ続けている社会問題となっています。

このため、今年の4月に「花粉症に関する関係閣僚会議」が設置され、この中で、花粉症を解決するための道筋を示す「花粉症対策の全体像」が決定されました。

この全体像は、①発生源対策、②飛散対策、③発症・曝露対策の3本柱となっており、今後、短期・中長期的かつ総合的に進められます。

今回は、主に林業に関係する①発生源対策について説明します。

発生源対策としては「10年後には花粉発生源のスギ人工林を約2割減少させることを目指し、将来的（約30年後）には花粉発生量の半減を目指す。」とされ、主な内容は次のとおりです。

(1) スギ人工林の伐採・植替えの加速化

- ・スギ人工林の伐採を約5ヘクタールから10年後には約7ヘクタールまで増加
- ・伐採後には、花粉の少ない苗木や他樹種による植替えを推進

(2) スギ材需要の拡大

- ・住宅分野でのスギ材製品への転換促進
- ・JAS材の増産に向けた加工流通施設の整備

(3) 花粉の少ない苗木の生産拡大

- ・花粉の少ないスギ苗木の割合を5割から10年後には9割以上に引き上げ

(4) 林業の生産性向上及び労働力の確保

- ・高性能林業機械の導入支援等による生産性の向上
- ・新規就業者の確保・育成、処遇の改善

本組合におきましても、現在、スギ人工林を中心に伐採し、伐採後に少花粉スギやコウヨウザンなどの苗木に植替えする「主伐・再造林事業※」を進めているところであり、このことは、花粉症対策だけでなく、カーボンニュートラル・脱炭素社会の達成や県産材の安定供給等にもつながるものであり、今後とも主伐・再造林事業をより一層進めて、より多くの組合員の皆様に、より多くの利益を還元して参りたいと考えておりますので、組合員皆様の御支援・御協力をいただきますようお願いいたします。

※本組合では、主伐・再造林事業（伐採・植栽・下刈り）を委託いただいた組合員の皆様には1ヘクタールあたり50万円以上を利益還元することとしております。

事業についてのお問い合わせは、組合までご連絡ください。



コウヨウザン植栽（鳥取市気高町下原地内）

各地区総代との 意見交換会を開催

令和5年6月23日(金)～25日(日)にかけて、各地区の総代の皆さんを対象に意見交換会を次のとおり開催しました。

(開催日及び出席者数)		地区名	開催日	場所	参加総代数
鹿野町・気高町	令和5年6月23日(金) 9:30～11:30	鹿野町地区公民館	11人		
青谷町	令和5年6月23日(金) 13:30～15:30	青谷町 コミュニティセンター	9人		
国府町	令和5年6月24日(土) 9:30～11:30	国府町 コミュニティセンター	11人		
岩美町	令和5年6月24日(土) 13:30～15:30	岩美町中央公民館	9人		
福部町	令和5年6月25日(日) 9:30～11:30	福部町 コミュニティセンター	6人		
旧鳥取市	令和5年6月25日(日) 13:30～15:30	鳥取県東部森林組合	15人		
計			61人		

嶋沢組合長からのあいさつと本組合の事業取組状況の説明に続き、若林参事から「主伐・再造林事業」「早生樹造林事業」などの事業説明を行いました。このような機会に限らず、事業内容で聞きたいことがある場合、また林業専用道・森林作業道が壊れている場合など、お気づきの点があれば森林組合へご連絡ください。

〈文責：常務理事 村上哲朗〉



意見交換会であいさつする嶋沢組合長 (6月23日 鹿野町・気高町地区)

組合事業の紹介

1 主伐・再造林事業

人工林の若返りを図り、次世代への資源の継承や二酸化炭素の吸収量を向上させるために、スギ・ヒノキの人工林を伐採し、その後植栽、下刈を実施します。

○対象人工林

- ・組合員が所有するスギ、ヒノキの人工林
- ・組合員から、伐採と植栽、下刈を一括して委託を受けたもの
- ・一団地1ha以上(複数名可)から対応

○作業内容

- ・植栽樹種…少花粉スギ、コウヨウザン等を植栽
- ・森林作業道…木材を搬出し、造林するための作業道を整備
- ・獣害対策…シカやウサギの食害から植栽木を守るため、防鹿柵の設置や忌避剤の散布

2 早生樹造林事業

○組合員の皆様から委託を受けた場合には、1haあたり50万円以上を返金します。なお、令和4年度実績では1haあたり平均約80万円を返金しました。

荒廃農地(果樹園・田・畑)を有効利用し、30年程度で伐採できる早生樹を植栽します。

○対象農地

- ・組合員が所有する荒廃農地0.1ha以上(複数名可)から対応
- ・地目が農地の場合には、農業委員会の「非農地証明」が必要

○植栽等の内容

- ・植栽樹種…成長が早いセンダン等を植栽
- ・獣害対策…シカ等の食害から植栽木を守るため、防鹿柵の設置や忌避剤の散布

・水田跡の場合、水はけを良くするため、深さ1m程度にある硬盤層をバツクホウにより破壊

○センダンは、木目・材質がケヤキに似ていることから、家具材や内装材として需要が高まっています。

〈文責：常務理事 村上哲朗〉

「第3回日本伐木チャンピオンシップin鳥取」が開催されました！

チェーンソー技術を競う「第3回日本伐木チャンピオンシップin鳥取」(実行委員会主催)が令和5年10月28日～29日、西伯郡大山町の「大山横原駐車場」で開催されました。

日本伐木チャンピオンシップin鳥取は、令和元年11月に鳥取市福部町湯山の「鳥取砂丘オアシス広場」で

第1回が開催、令和3年11月には北栄町由良宿の「出会いの広場」で第2回が開催され、第3回の今年は西部地区での開催となり、県内外から過去最多の91名が出場しました。

今大会は従来からの「プロフェッショナルクラス」39名(※1)、「ビギナークラス」22名(※2)に



丸太合わせ輪切り競技中の栗田班長代理

に加え、林業大学の学生や林業高校の生徒が対象の「アカデミー・ジュニアクラス」(※3)が新設され、全国から10校15組30名の未来の林業を担う若者が出場し、一般来場者が過去最高の1,800人となるなど大いに盛り上がった大会となりました。

競技は、プロフェッショナルクラスが、「伐倒競技」、「ソーチエン着脱競技」、「丸太合わせ輪切り競技」、「地丸太輪切り競技」、「枝払い競技」の全5種目、ビギ

ナークラスが「伐倒競技」、「丸太合わせ輪切り競技」の全2種目、アカデミー・ジュニアクラスは「伐倒競技(簡易方式)」、「丸太合わせ輪切り競技」の全2種目を2人1組の合計得点で競いました。

当組合からは、技能員7名(プロフェッショナルクラス5名、ビギナークラス2名)が参加し、これまでの練習で磨いた技術を遺憾なく発揮し、競技に取り組んでいました。過去2大会にプロフェッショナル



伐倒競技中の田邊技能員



枝払い競技中の向井班長代理

クラスに出場している栗田亮班長代理は、28日の4種目が終了した時点で暫定1位となり、29日の「枝払い競技」で惜しくも順位を一つ落としましたが、見事表彰台に立つ総合2位となる大健闘でした。

そして、今大会初めて出場した田邊邦治技能員がビギナークラスで3位となる大健闘でした。

総合2位となった栗田亮班長代理は「落ち着いていつもどおり臨めたことが今回の結果につながりました」



向井康二班長代理と向井哲太くん親子

た。日々の仕事でも安全で正確かつ迅速に作業できるように頑張ります。」と語っていました。

出場クラスは違いますがプロフェッショナルクラスに出場した向井康二班長代理はアカデミー・ジュニアクラスに出場した鳥取県立智頭農林高等学校2年生の向井哲太くんと親子での参加となり、表彰式で向井哲太くんの2年生チームの名前が1位で呼ばれると親子で喜びを爆発させていました。

鳥取県立智頭農林高等学校からは2チーム4人が出場しました。本組合では6月から8回にわたり、実技指導を行ってきましたが、その成果が出たことに大変喜んでいるところです。

今後アカデミー・ジュニアクラスを通して、若者の林業への就業が増加することを願ってやみません。最後になりましたが、参加者全員の健闘を称えたいと思います。

〈文責：経営課長 古川晶朗〉

当組合から参加した技能員の主な成績は次のとおりです。

「プロフェッショナルクラス」

〈総合〉

〈種目別〉

「設置丸太輪切り競技」

「丸太合わせ輪切り競技」

「伐倒競技」

「枝払い競技」

「ビギナークラス」

〈総合〉

〈種目別〉

「伐倒競技」

「丸太合わせ輪切り競技」

2位…栗田 亮

1位…栗田 亮

8位…清水 勇介

2位…栗田 亮

7位…栗田 亮

3位…田邊 邦治

4位…田邊 邦治

5位…田邊 邦治

5位…田邊 邦治



上(左)から岩竹技能員、田邊技能員、清水班長代理、向井班長代理
下(左)から澤技能員、栗田班長代理、森本技能班長



接地丸太輪切り競技中の清水班長代理



ソーチェン着脱競技中の澤技能員

※1プロフェッショナルクラス：日本伐木チャンピオンシップ出場経験者、各県で開催されている日本伐木チャンピオンシップ競技ルール(5種目競技)に準ずる大会出場経験者など
※2ビギナークラス：日本伐木チャンピオンシップ出場未経験者
※3アカデミー・ジュニアクラス：林業大学校等の学生、高等学校の生徒等 1チーム2名で、2人の合計得点で順位を決定(1団体複数チーム参加可能)

湖南学園・鳥取北ロータリークラブと 協働植樹を実施

令和5年11月22日、鳥取市三山口地内の放置竹林を伐採した跡地に、鳥取市立湖南学園（安田直人校長）の5年生児童16名と、鳥取北ロータリークラブ（入江容子会長）17名、組合役職員6名が協働でクヌギの苗木60本を植樹しました。

当日は天候にも恵まれ、参加者は組合職員からの植樹方法の説明を聞いた後、大きく育つようお願いしながら苗木を植えました。加えて今回は、竹林整備跡地での植樹のほか、学校敷地内にもタイサンボク、ベニバナヤマボウシ、シロバナヤマボウシをそれぞれ一本ずつ、今回の活動を記念して植樹しました。植樹活動を終えた児童の皆さんは「初めて苗木を植えたけど、上手に植えられてとても楽しかった。」と話し、今回の植樹活動を通して「森林を整備していくことで、おいしい水やさきいな空気が保たれている」といった、森林の大切さをより深く学ぶ良い経験となったと思います。

また、嶋沢組合長から竹で作った植木鉢とチューリップの球根が児童代表に贈られました。鳥取北ロータリークラブと地元小学校、義務教育学校との協働植樹は平成29年から毎年続いており、今回で7校目となりました。今後も、協働して植樹活動を実施していきたいと考えています。

〈文責：経営課主任 濱田洋輔〉



湖南学園との協働植樹

未来の人財を求めて高校を訪問！

高校訪問とは、実際に高校に訪問し、組合の特徴や魅力を伝える活動のことです。今年度は、鳥取県立鳥取工業高等学校（6月6日）、鳥取県立鳥取湖陵高等学校（6月9日）、鳥取県立智頭農林高等学校（7月20日）の3校を、嶋沢組合長と森田課長補佐が訪問しました。

森林組合とはどのような仕事をしているところなのか？そもそも林業とは何か？と知っている高校生が大多数の中、興味を持ってくれた生徒さんに当組合の紹介をしました。その中で組合長から、「林業とは、木を植えて、育てて、伐って、使って（売って）、また植えるという循環により、健全な森林を造り、水源涵養や地球温暖化防止など公益的機能を果たす重要な役割を持つ産業であり、この循環に森林組合は携わっている。」との説明に、生徒達はじつくりと耳を傾けていました。森林組合で林業に携わる未来の人財を掘り起こすために、今後とも高校訪問を継続的に行っていきたくと考えています。

〈文責：経営課課長補佐 森田佳代〉



令和5年6月6日 鳥取県立鳥取工業高等学校



令和5年7月20日 鳥取県立智頭農林高等学校



にちなん林業アカデミーの現地研修を受け入れ



令和5年10月2日、にちなん中国山地林業アカデミー（日南町）の現地研修（学生と教員の計11名）を受け入れました。

はじめに、組合長から森林・林業を取り巻く現状や花粉症対策に向けた課題、現在組合が積極的に取り組んでいる主伐・再造林などについて組合事務所での説明した後、鹿野町広木の皆伐・間伐現場に移動しました。現場では、重機業務だけでなく、アカデミー卒業生である川下技能員（1年目）によるチェンソー伐倒の様子を見学してもらいましたが、事務所でも現場でも活発な質疑が行われ、今後、林業に従事していく学生達の意欲の高さを感じました。

組合では、未来を担う林業従事者の育成に貢献するとともに、本組合への就職につながるよう、今後もこのような現地研修の受け入れを積極的に行っていきたいと考えています。

〈文責：経営課課長補佐 森田佳代〉



現場での研修の様子（鹿野町広木）



組合長による組合概要説明



ハーベスタで造材作業をおこなう2年生の生徒

本組合では、鳥取県立智頭農林高等学校からの就業体験として7月31日から8月4日にかけて森林科学科3年生の2名を、10月16日から20日にかけて森林科学科2年生の2名を、それぞれ受け入れました。

鳥取県立智頭農林高等学校の就業体験は3回目の受け入れとなります。3年生の2名は昨年10月（2年生時）に就業体験を実施していますが、今回は猛暑の中で皆伐現場の作業を4日間体験したことで、夏場の林業の厳しい一面を感じてもらえたのではないかと思います。参加した生徒は、「夏場での伐倒作業が大変だったが、やりがいを感じられた」と話していました。

また2年生の2名は今回が初めての現場実習となりましたが、学校の授業ではほとんど伐ることがない大径木を伐ったり、高性能林業機械を操作するなど、日ごろ現場技能員がどのような作業をしているかを学んでもらいました。参加した生徒からは、「ハーベスタ（枝払・造林をする機械）の操作が難しかったけど楽しかった」、「ちゃんと自分が狙った方向に木を倒せた時は爽快感がある」などの感想が聞かれました。また、作業の中で林業の仕事について分からないこと、気になっていることなど現場技能員へ様々な質問をしており、参考となる話を聞くことができる機会となったようです。

今回の就業体験を今後の進路に活かしてもらうとともに、将来は当組合への就職につながることを期待するものです。

組合では、これからも引き続き就業体験の受け入れを行っていきたく考えています。

〈文責：経営課長 古川晶朗〉



伐倒作業をおこなう3年生の生徒

智頭農林高等学校からの就業体験を受け入れ



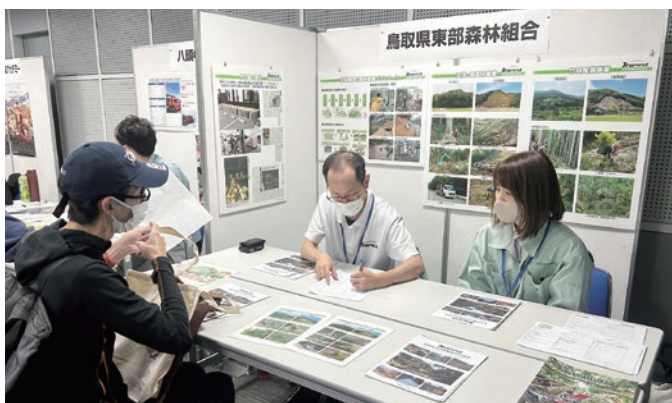
森林の仕事ガイダンスへ参加

令和5年10月15日、梅田クリスタルホール（大阪市）で、関西圏を対象とした「森林（もり）の仕事ガイダンス」が開催され、本組合から森田課長補佐と濱田主任が参加し、組合ブースで来訪者の相談に対応しました。

森林（もり）の仕事ガイダンスは、林業従事者の確保を目的に、森林・林業に就業を考えている方や関心を持っている方を対象に開催されている説明・相談会です。これから就職を迎える学生や転職、移住を考えている社会人などの皆様に、組合での仕事内容や移住に関することを対面で説明できる貴重な機会です。

また、令和6年1月20日には、米子市で開催される県内への林業就業希望者を対象にしたガイダンスにも参加します。今後とも、県内外のガイダンスへ積極的に参加し、職員や現場技能員の確保につなげていきたいと考えています。

〈文責：経営課主任 濱田洋輔〉



夏の献血を実施

令和5年8月25日、組合事務所で開催しました。献血バスに来ていただくのは今年で3年目になります。特に必要とされている400ml献血に職員・技能員の有志15名が協力しました。組合では今後も献血に協力していきたいと思っております。

〈文責：経営課課長補佐 森田佳代〉



新人職員の紹介

技能職員

○令和5年10月10日付 採用

林産二課

山名 悠太（鳥取市出身）

「みなさん、初めまして。林業の仕事は初めてですが、上司や先輩方の現場に同行させていただき、実際の作業の手順や様々な工程の内容や流れを学んでいます。

覚えることはたくさんありますが、しっかりと覚えて、一日でも早く皆さんのお力になれるよう頑張りますので、よろしくお願ひ致します。」

組合員向け「チェーンソー講習会」実施のご案内

本組合の現場技能員が講師となり、組合員を対象にした「チェーンソー講習会」の開催のことが望まれましたら、事前に森林組合にご連絡ください。

なお、開催にあたっての参加人数は3人〜10人程度を想定しており、参加人数が集まらない場合は中止とさせていただきますので、ご了承ください。

お知らせ

★相続加入届等の提出について

- 組合員の相続人の方で
- ①引き続き組合員になられる方は相続加入届出を2年以内に提出してください
 - ②脱退をされる方は脱退届を事業年度末（1月31日）の60日前までに提出していただき、総代会終了後に脱退することができます。

★組合員加入のメリット

- ①「組合だより」「組合カレンダー」の配布等により森林林業に関する情報やサービスを受けることができます。
- ②搬出間伐等の施業を組合に委託し行う場合、手数料率が低くなります。（18%→12%）
- ③竹林整備事業や松くい虫被害跡地整備事業、早生樹（センダンなど）植栽事業による植栽や下刈などを行う場合、組合からの助成金により負担がなくなります。
- ④主伐再造林事業で、組合がスギ・ヒノキの人工林の伐採と植栽、下刈の各作業を一括して委託を受けた場合、組合から1haあたり50万円以上の利益返金が受けられます。

